

〔平成22年2月5日（金）〕

美しい森林づくりニュース 〈NO. 155〉

～ 伝えたい木の文化、残したい美しい森 ～

発信元：林野庁 研究・保全課 美しい森林づくり推進班 美しい森林づくり企画係 久保木
Tel：03-3502-8111（内線6216）03-3501-3845（直通）Fax：03-3502-2887

ご意見、ご質問は → <https://www.contact.maff.go.jp/rinya/form/5dd6.html>

バックナンバーは → <http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/utsukushiimoridukuri/news.html>

◎ 企業による森づくり活動のご紹介・相談会の開催！

－ 「企業の森づくりフェア2010」の開催（東京）－

1月27日（水）、墨田区「KFCホール」において、「企業の森づくりフェア2010」が（社）国土緑化推進機構及び（株）エス・ピー・ファームの主催で開催されました。フェアには、約198社・団体等の環境・CSR担当者を中心に、都道府県などを合わせて約330人が参加し、企業の森づくりに関する活発な情報交換が行われました。



多くの企業から参加いただいた環境・CSR担当者

（フェアの概要）

フェアの講演会場では、島田林野庁長官から、企業のCSR活動としての森づくりに期待する旨の挨拶、次いで、基調講演として松本光朗（独）森林総合研究所温暖化対応推進室長からCOP15での議論やREDDに関して、また、川廷昌弘（株）博報堂DYメディアパートナーズ環境コミュニケーション部長から、本年が「国際生物多様性年」であることなどを踏まえた持続可能な企業経営に繋がる森づくりに関してそれぞれ講演がありました。

また、事例報告として、日本たばこ産業（株）及びサミット（株）で行われている森づくり活動についての経緯や様子などの紹介があり、さらに、川廷氏をコーディネーターに迎え、両社の森づくり活動においてのポイントや今後の展開について、ディスカッションが行われました。

都道府県等ブース展示会場では、都道府県、国有林等が出展した30のブースで、参加された企業の担当者の方が出展者と活発な情報交換や森づくりの相談が行われました。



都道府県と企業担当者による森づくり相談会の模様

（今後の予定）

今後、2月26日（金）にマリンメッセ福岡、3月19日（金）に大阪国際会議場でも開催される予定となっています。

◎「木づかい運動」に貢献いただいた方々に感謝状を贈呈
— 国産材利用推進部門、木づかい運動推進部門で表彰 —
(開催趣旨)

京都議定書の目標達成に向けて、国産材の利用量を拡大し、国内の森林整備の推進を図ることが重要となっています。このため、林野庁は、平成17年度から国民運動として「木づかい運動」を展開しています。

この取組の一環として、国産材利用の意義や良さについて積極的に紹介等を行った事業者及び木づかい運動の意義等のPRを積極的に行った普及啓発者に「木づかい運動感謝状」を贈呈することとしています。

(贈呈式の概要)

1月27日(水)、墨田区「KFCホール」において、平成21年度受章者に対し、島田長官及び伊藤威彦(財)日本木材総合情報センター理事長より、感謝状が贈呈されました。

(農林水産大臣感謝状)

- ・国産材利用推進部門
株式会社トーセン(栃木県)、林ベニヤ産業株式会社(大阪府)
- ・木づかい運動推進部門
株式会社内田洋行(東京都)、有限会社生活アートクラブ(東京都)

(林野庁長官感謝状)

- ・国産材利用推進部門
協同組合しその森の木(兵庫県)、株式会社安成工務店(山口県)
- ・木づかい運動推進部門
株式会社岡村製作所(神奈川県)

(財団法人日本木材総合情報センター理事長感謝状)

- ・国産材利用推進部門
山新林業株式会社(新潟県)、株式会社モーリ(愛媛県)
- ・木づかい運動推進部門
青森スギで家を建てる東青地域会(青森県)
三菱鉛筆株式会社(東京都)
日興コーディアル証券株式会社(東京都)

なお、審査講評については別紙のとおりです。



感謝状を贈呈された皆様



伊藤理事長から感謝状を贈呈

※ 155号から、ニュースの作成担当者が久保木に替わりました。
(前担当者から一言)平成19年2月にこの運動が始まり、3年が経ちました。この間、ご愛読者の皆様のお陰をもちまして147号の発刊が出来ました。誠にありがとうございます。今後とも一層の御愛顧を賜りますよう宜しくお願いします。(山口)

※ 「美しい森林づくりニュース」のメールマガジンの配信を始めています。
登録はこちらから → <http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/utsukushiimoridukuri/mail.html>

審査講評

平成21年度の木づかい運動顕彰は、11月30日に審査委員会を開催し、厳正な審査を行った結果、下記の企業・団体が受章されました。受章者の審査講評は以下のとおりです。

農林水産大臣感謝状

■株式会社トーセン(栃木県)

母船式木流システムの考案により乾燥・加工工場(母船)と既存製材工場との連携強化を図り、国産材消費量が16万 m^3 と大量であること、また各種シンポジウム、セミナーに講師、パネラーとして参加するなど国産材利用の拡大に向けた取組が評価されました。

■林ベニヤ産業株式会社(大阪府)

針葉樹合板製造のパイオニアであり、合板原料として国産材消費が20万 m^3 に達していること、京都府、長野県、岐阜県等の自治体と協力して地域材を活用した国産材合板(地域認証材合板)を製造・販売し、国産材合板の普及拡大に努めていることが評価されました。

■株式会社内田洋行(東京都)

杉を使った家具「アシカラ&スギカラシリーズ」の発表・展示をはじめ、随所に国産材を利用したオフィスづくりを実践しており、杉を使ったウッドデッキ、セミナーホールの杉舞台など「木づかい」の演出手法の巧みさが評価されました。

■有限会社生活アートクラブ(東京都)

伝統工芸品から汎用品まで約500種類の全国各地の国産木製品を展示、販売している努力、使い手である消費者ニーズの生産者へのフィードバック、特別企画によるユーザーの購買意欲をそそるチラシの制作、提案といったユニークな販売手法が評価されました。

林野庁長官感謝状

■協同組合しその森の木(兵庫県)

伐採現場から建築現場まで一連の見学ツアーを実施するなど顔の見える木材での家づくりを進めている他に、製材品のICタグによる履歴管理の実証実験などの新しい取組、またテレビ、新聞など各種メディアへの積極的な対応も評価されました。

■株式会社安成工務店(山口県)

「2009年顔の見える木材での家づくり30選」に採択された実績や木材産地と連携して森林認証材を使用した家づくり、さらに間伐材の木質バイオマスを使った集中冷暖房システムの導入住宅など先進的なエコ活動への取組が評価されました。

■株式会社岡村製作所（神奈川県）

社内で木材利用や森林生態系保全についての勉強会を重ね、「オカムラグループ木材利用方針」を策定し、間伐材原料のMD F（中質繊維板）を天板に採用したオフィスデスクの製造・販売を開始するなど地道な国産材利用の体制づくりが評価されました。

（財）日本木材総合情報センター理事長感謝状

■山新林業株式会社（新潟県）

越後杉ブランド認証材生産工場として、長押、敷居、鴨居などの造作用集成材、カウンター部材、階段材などの化粧貼り集成材の商品開発に取り組んでいることが評価されました。

■株式会社モーリ（愛媛県）

森林組合と連携し、放置された間伐材を利用して和紙、名刺、はがきなどの紙製品の製造販売を行い、売上の一部を森林整備費に還元する体制づくりを進めたことが評価されました。

■青森スギで家を建てる東青地域会（青森県）

木づかいセミナー&木づかい体験会などを開催するとともに、スギ床簡易パネル「ゆぎゆかくん」の地域への無料出張貸出など県産材利用の普及活動を地道に続けている点が評価されました。

■三菱鉛筆株式会社（東京都）

都道府県産材をシャープペン、ボールペンの軸材に使用した「故郷の木持ち」シリーズを商品開発し、官公庁や民間企業に積極的な提案を行い、木づかい運動の普及啓発に努めている点が評価されました。

■日興コーディアル証券株式会社（東京都）

目論見書や取引残高報告書などの書類をインターネットで閲覧できる電子交付サービスの利用を促進するため、「電子交付でエコキャンペーン」のプレゼントに間伐材を使用した木づかい製品を採用している取組が評価されました。